

もっと知りたい! 学校健診

学校健診は日本独自の集団健診システム

学校健診は毎年5月から6月に全国一斉に実施しています。
 毎学年6月30日までの実施が決まっています（学校安全保健法施行規則第5条）。
 学校健診システムは世界中で行われているわけではありませんが、
 日本の学校健診には**多くの病気を事前に発見**してきた実績があります。



米国方式

プライバシーを重視して
 保護者が個別に小児科医に連れていく。
 学校心臓検診や検尿はない。

メリット

- プライバシーの保護

デメリット

- 学校を早退・休ませないと健診に行けない
- 保険や地域の医療供給状況によつては予約調整の負担が大きい

各家庭によって受診率にばらつきがあり

見逃す病気が出る可能性

日本方式

学校で集団健診として行う。

メリット

- 健診のために学校を休ませる必要がない

非常に高い参加率を維持

デメリット

- プライバシーへの配慮が必要

カーテン・同性立会い等の環境整備で対応可能



学校健診では何を検査しているの？

- 身体診察
- 視力 / 聴力検査
- 学校検尿



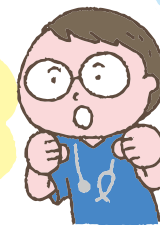
- 心電図検査 小学校・中学校・高校の入学時に実施。生まれつきの心臓の病気（先天性心疾患）の多くは学校入学前に既に発見されていることが多いのですが、学校健診では不整脈などが見つかることがあり、早めに治療に繋げる機会になります。

今はほかの検査もあるよ!

- 寄生虫検査
- 胸囲や座高測定
- 色覚異常

医療者の想い

早期発見で治療できる病気を少しでも早く発見し治療につなげることで1児童の健康と幸せを守りたい



検尿

腎臓の病気を早期に発見し、治療に繋げることができます

検尿のタイミングが朝起きてすぐなのはなぜ？

立ったり座ったりの活動をしていると病気でなくても蛋白尿が検出されやすくなります（体性性蛋白尿）。その影響を除外するため「朝起きてすぐ」の尿を検査しています。



どんな病気が見つかるの？

学校検尿で見つかる病気として重要なのが**慢性腎炎**です（特にIgA腎症）。日本では、海外と比べて慢性腎炎による腎不全の患者が少ないのは**学校検尿による早期発見の成果**と考えられています⁽¹⁾。

運動器検診

側弯を含む背骨の病気や、胸郭の異常、腕や足など四肢の異常を見つけます

2016年から運動器検診が追加になりました。

側弯を含む背骨の病気や、胸郭の異常、腕や足など四肢の異常を見つけるための健診です。

- 社会環境の変化で子どものスポーツ活動が活発になり、スポーツに関わるケガや障害が増えたため。
- 家庭用ゲームの広がりとともに外遊びが減って運動不足の懸念も。

この40年間で子どもの骨折率は約2.5倍になったことが報告されるなど、運動器（背骨・胸郭・手足）に関する課題がクローズアップされるように⁽²⁾。

スポーツ活動による過度の練習に起因した、いわゆる**スポーツ障害**は小学校高学年から中学生にかけて増えるから



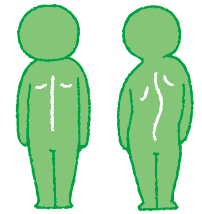
小学校の健診から運動器検診が導入されているよ

服の上からでは見つけられない病気があります



思春期特発性側弯症

早期発見できないと手術が必要になることも



着衣では正確に診断できない病気の代表例が側弯症（そくわんしょう）。側弯症とは背骨が左右に曲がる病気。生まれつきのこともあります。多く（80%以上）は特発性側弯症です。さらにその9割が思春期特発性側弯症です。

思春期特発性側弯症は11歳以上で起こり思春期に進行します。男女比1：9と圧倒的に女子に多い病気です。珍しい病気ではなく、女子全体の2%が該当⁽³⁾します。緩やかに進行するため思春期には症状は出ず気づかれないので、健診で見つける必要がありますが体操服など厚手の服装では背中の評価が難しいです。ある研究では体操服の上からの側弯症発見率は0.5%と、タンクトップなどの下着の上から検診した場合の発見率（2.8%）と比べて明らかに低いことが報告されています⁽⁴⁾。側弯症の発見が遅れて手術が必要となり、訴訟になったケースもあります。

早期発見できないと手術が必要になることもあり、症状がなくても定期的に健診を行いチェックする必要があります。学校健診でないとなかなか漏れなく見つけるのが難しい病気です（予約を取って個別受診する余裕のない受験生など）。

運動器検診開始後、思春期特発性側弯症全体のうち学校検診で発見された割合は75%で、運動器検診開始前の44%よりも改善し、また発見時年齢も下がっており、早期発見に繋がっています⁽⁵⁾。

原因 遺伝や環境要因が複雑に関係していると考えられています。学校の荷物の重さなどは関係ないとされており、交互の肩に荷物をかけて予防できるわけではありません。

症状 症状が進むと背中や腰の痛みが出現。早期発見できないと手術が必要になることも。

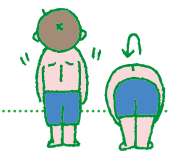


体操服など厚手の服だと見つけにくい
手術になることも

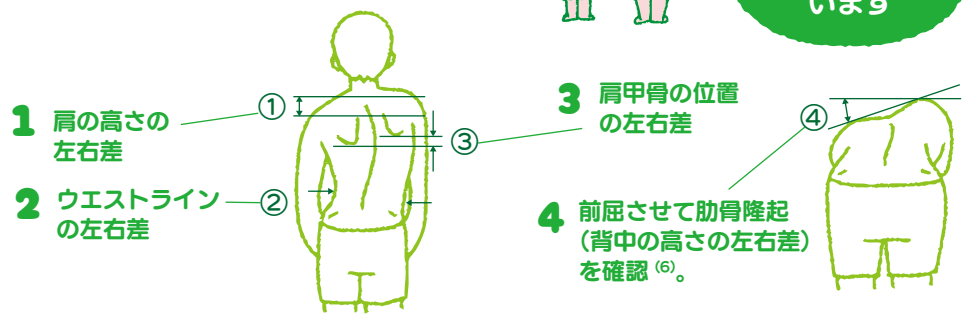
思春期特発性側弯症 背中だけ確認できればよく、前面は隠したままで問題ありません



まず、まっすぐ前を向き、「気をつけ」をした後、背部から1~4のチェックをします。



学校健診ではこんなことをチェックしています



見逃しを減らすために、保護者の事前チェックも重要！

家庭で保護者向けに問診票が事前配布。保護者自身が検診前に子どもの背中の変形をチェックすることで、学校医と保護者のダブルチェックで見落としを減らせます。保護者のみの観察では見落としが増える可能性があるため、医師の指導に従ってください。



皮膚の問題 治療がうまくいっていない湿疹や、気になるあざが見つかることがあります

こんなことが見つかります

- 湿疹 アトピー性皮膚炎などの湿疹がコントロールできているかチェック

聴診

正確な音を識別することが非常に重要！



正確な音を識別することが非常に重要です。
直接肌に聴診器を当てたいと考える理由：
ある研究では、布が肌と聴診器の間にあると呼吸音が平均 5~18 dB減少し、
程度は小さいものの**聞こえにくくなる**と報告しています⁽⁷⁾。

衣類を着用すると、このように医師が聴く必要のある音が聞こえにくくなったり歪んだりするため、心雑音や呼吸音を正確に捉えることが難しくなるのです。上半身裸である必要はなく、肌着を着用していれば衣服の下に潜り込ませて聴診することが可能です。体操服の上からの聴診は布が分厚いので正確な聴診は難しいというのが本音です。



こんなことが見つかります

● 心音や心雑音のチェック ▶ 心臓の病気

心臓の病気を発見するきっかけに。
大きな心雑音は乳幼児期にすでに発見されていることが多い。



● 呼吸音のチェック ▶ 喘息などの慢性呼吸器疾患

軽い喘息は、本人も気づかないまま「なんとなく風邪が長引きやすい」で終わってしまうことがあります。
喘息をケアしないでいると、授業に集中しにくくなったり、学校を休む日が増えてしまいます。⁽⁸⁾
健診で早めに見つけることが、あなたの学校生活を守ることに繋がります。



聴診

上半身裸である必要はなく、肌着を着用していれば衣服の下に潜り込ませて聴診することが可能です。

<参考文献>

1. 日本小児腎臓病学会. 学校検尿・3歳児検尿にかかわるすべての人のために. 小児の検尿マニュアル. 2015.
2. 高橋 敬明, 内尾 祐司, 武藤 芳照. 【小児の運動器障害とリハビリテーション医学】小児の運動器 運動器検診の概念と目的. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine. 2018;55(1):4-8.
3. 川上 紀明. 【小児骨関節疾患の治療とリハビリテーション】劇症の治療. Journal of Clinical Rehabilitation. 2018;27(9):841-9.
4. 吉直 正俊. 劇症性検診・検診環境(着衣状況)からの疑い率. 島根医学. 2018;38(3):163-8.
5. 伊藤田 慶, 林田 光正ほか. 思春期特発性劇症性患者の発見理由は運動器検診開始後に変化したか. 整形外科と災害外科. 2019;68(4):795-8.
6. 運動器の健康・日本協会. 学校での運動器検診の手引き[1]. 検診のための準備印刷物. 2020.
7. Kraman SS. Transmission of lung sounds through light clothing. Respiration. 2008;75(1):85-8.
8. Gracy D, Fabian A, et al. Missed opportunities: Do states require screening of children for health conditions that interfere with learning? PLoS One. 2018;13(1):e0190254.

児童生徒等の健康診断の実施にあたり、プライバシーや心情に配慮することが重要

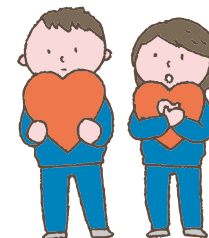
文部科学省の提案
(2024年1月)

- 診察時に児童生徒の身体が周囲から見えないよう 囲いやカーテンなどを準備する
- 児童生徒の診察に立ち会う教職員は 同性となるよう役割分担を行う
- 着替える場所の準備や待機人数を 最小限にするなどの工夫を行う
- 正確な検査や診察に支障のない範囲で着衣やタオルで 体を覆うなど**児童生徒のプライバシーに配慮**。



思春期の児童への配慮はとても重要

同性のクラスメイトであっても見られるのは抵抗感があるもの。
男女ともに**思春期の児童の羞恥心に配慮するのは当然**です。
ですが、**着衣では正確に診断できない病気**があります。
また、限られた時間でたくさんの人数をスクリーニングしないといけないので、一人あたりにかける時間が短時間という制約もあります。
同性の医師による診察ができれば望ましいですが、
現実には健診に対応できる女性小児科医の数は少ないのが現状です。



学校関係者・医療者の皆さんへ

児童の尊厳を守りながら、納得して健診を受けてもらうために

必要性を納得できなければ安心して健診を受けることは難しいです。背中をしっかりと確認することが望ましい理由など、

医療者から学校関係者へ、学校関係者から保護者や児童に丁寧に説明し、お子さん本人と保護者の合意を得たうえで健診を行います。



身体の露出を強いることは目的ではありません。

可能であれば、健診前に服装の選択肢をお子さんにお伝えし、本人が納得して選べる環境が理想的です。